

鹿児島島の海をきれいにしよう釣り大会

令和元年5月29日 水産技術開発センター

5月26日（日）に鹿児島島本港において、鹿児島島本港一本釣り組合主催の標記釣り大会が開催されました。

遊漁者の海洋環境保全意識の向上を目的に、海上及び海辺のゴミを回収しないと釣果の計量ができないというルールのもと、参加者の方々は釣りを楽しみながら、ゴミの回収にも努めていました。

当センターは、釣獲されたマダイを対象に体長と重量を測定し、放流魚であることを示す鼻孔連結の有無を記録しました。今年は、マダイ99尾の釣果のうち、2尾に鼻孔連結を確認しました。

また、集計の待ち時間を利用し、マダイ・ヒラメの種苗放流の取り組みや放流魚の判別方法を参加者の方々に紹介しました。



回収されたゴミ



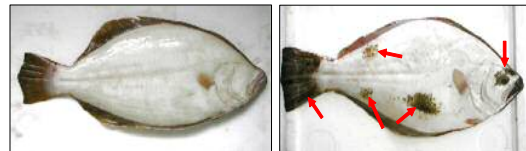
マダイ測定状況

放流魚の判別方法



天然：鼻の穴が2つ

放流：鼻の穴が繋がっている



天然：無眼側が真っ白

放流：無眼側に黒斑

まとめ（みなさんへのお願い）

○鹿児島島のマダイ・ヒラメ資源は良好な状態にあります。しかし、若齢魚が減り続けると、資源状況は悪化します。特に、マダイは1歳魚が減少傾向にあります



○小型のマダイ・ヒラメは捕らないようにしましょう
資源の維持のためには小型魚の保護が重要です。

※漁業調整委員会指示により全長12cm以下のマダイ及び全長25cm以下のヒラメの採捕は禁止されています（漁業者は自主規制として全長15cm以下のマダイの採捕を禁止しています。）

全国でも有数なマダイの好漁場「鹿児島湾」を守り続けるためにご協力をお願いします。

いつまでも美しい鹿児島湾であるために環境（海）の保全も忘れずに！

説明に使用したパネル（一部抜粋）